

～機関評価～「統合生命医科学研究センターアドバイザー・カウンシル」  
(第1回：平成26年5月27日(火)～29日(木)実施/委員会形式)

(報告書の概要)

- ・IMSの全体的な研究の質は非常に高い。統合前のCGMとRCAIの際立った研究成果がIMSに引き継がれている。IMSとしての客観的な評価は尚早である。
- ・いくつかの新しい技術開発が見られる。しかし、恐らく予算的な制約により、集中化或いは重点化されていないようである。小原博士は、一細胞分析基盤の構築を進めている。疾患多様性医科学研究部門は、自動SNP分析システムを発展させている。
- ・旧RCAIが創設したYoung Chief Investigator (YCI) Programについては、YCIの成功を促すため、その予算を増すことを提言する。また、本制度をセンター全体に広げるべきである。
- ・旧CGMと旧RCAIのPI間における学際的研究を促進するプロジェクトが適切に組み立てられている。2つの旧センターが融合したセンターとしての成功度を測る客観的指標になるので、これらの連携が実りあるものになることは、新たなIMSにとって重要である。
- ・センター発足以来、小安博士は、旧CGMと旧RCAIをIMSとして融合させることに並々ならぬ尽力をしている。しかしながら、小安博士がセンター長代行であることは、小安博士の将来あるいはセンターの将来にとっても受け入れられることではない。
- ・IMSは、既に実績のある旧CGMと旧RCAIが統合されたものであり、現在も、高い研究水準が維持されている。
- ・今後の研究計画は興味深く、挑戦的である。現時点では、意欲的すぎるかもしれないが、成功に向けて精緻化して行く必要がある。
- ・RCAIが始めた国際サマープログラム(RISP)がIMSに引き継がれたことは喜ばしいことである。IMSは、まだ十分に認知されていないので、国際的知名度を上げるために重要である。
- ・IMSは、全体の僅か6%にすぎない事務担当アシスタントで、効率的に運営されている。運営費交付金予算は、55%が研究費に、45%が人件費に充てられており、適切である。
- ・旧RCAIはとても確立した人材流動システムを持っていたが、旧CGMでどのように運営され、これがIMSにおいてどのようにされるのかが不明確だった。

・内外との連携活動、国際化を含めた連携促進については、IMS はかなり成功している。

(委員リスト)

議長 : Max Cooper (Professor, Georgia Research Alliance Eminent Scholar, Department of Pathology and Laboratory Medicine, Emory University)

副議長 : Mark Lathrop (Scientific Director/Professor, McGill University and Genome Quebec Innovation Centre)

Ronald N. Germain (Deputy Chief, Laboratory of Immunology, National Institute of Allergy and Infectious Diseases, National Institutes of Health)

Paul W. Kincade (Vice President of Research, Oklahoma Medical Research Foundation)

Bernard Malissen (Director, Centre d'Immunologie INSERM-CNRS de Marseille-Luminy)

William E. Paul (Director, Laboratory for Immunology, NIAID, NIH)

Dale Umetsu (Principal Medical Director, Genentech, Inc.)

Fiona Powrie (Sidney Truelove Professor of Gastroenterology, Translational Gastroenterology Unit, Nuffield Department of Medicine - Experimental Medicine Division, University of Oxford, John Radcliffe Hospital)

Peter Sorger (Professor, Department of Systems Biology, Harvard Medical School)

Rudi Balling (Director, Luxembourg Centre for Systems Biomedicine)

高津 聖志 (富山県薬事研究所長)

烏山 一 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科免疫アレルギー学分野教授)

河上 裕 (慶應義塾大学医学部先端医科学研究所長)

Michel Georges (Full Professor, University of Liège)

徳永 勝士 (東京大学大学院医学系研究科人類遺伝学分野教授)

油谷 浩幸 (東京大学先端科学技術センター教授)